

「瓦版」



2020. October. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

NO.4

「農業革命⇒6つの問題」

カンボジアの農家の方々が抱える問題は様々だ。農業をめぐる問題として、具体的にどんなことが挙げられるのか、まずは**農業用水**だ。自然の雨水に頼った農作業が中心のカンボジアは、定期的に作物を作ることができず、近代的な灌漑を求める農家が増えてきた。現在は、灌漑設備に投資する資金が必要となっている。

つぎに**マーケット**。農作物が上手く売れない、または安くしか売れない。農作業を営む農家たちは、苦難を強いられている。

さらに、質の良い農作物を効率的に作るための栽培**技術**が不可欠となり、作物の収穫高が上がり、コストを抑えることにもなる。農家たちが組織を作る必要もある。いわゆる日本の農協のような農家の**コミュニティー**を設立することが重要となる。また、カンボジアでは洪水や干ばつなどの天災がしばしばあり、**天候**による影響を受けやすい。農業設備の投資は、金融機関からの高利で借金をしてきた。そのため、**資本**不足という問題を抱える農家が少なくない。



灌漑用水と米ドル



カンボジア国内のイオン野菜売り場

マーケットと市場

安心・安全な食品を食べたい。特にカンボジアでは、国外から輸入された農作物の農薬、化学肥料の使用に対して消費者が不安を抱える傾向が強い。

カンボジアには、農林水産省が規定する Cambodia Good Agricultural Practice (CamGAP) という認証制度がある。こういった基準に適合したものが売れるとわかれば、農家は基準に対する意識を持ち、付加価値により収入増、安定収入が得られ、農家のモチベーションにもつながる。

カンボジアのイオンの買い物客に話を聞いてみた。従来の市場ではなくスーパーで買い物をするのは「検査をしているから」という。「もちろん普通の市場で買う方が安いですが、検査や輸送などのコストがかかっていることを考えると、このくらいの値段でお手頃だと思います」。

一方で、従来の市場で買い物をする人は「国産と輸入もの見分けができるから」「安いから」という答えが多い。販売者も「うちでは地方から来る野菜を販売しています。農家からちゃんと供給されているため、自信を持っています」という。

安心・安全な食糧への意識が消費者の間で高まっており、売るほうも買う方も輸入野菜には慎重な考えを持っている様子。今こそ、国内の農作物をどんどん作って、カンボジアの人々に安心して食べてもらう仕組みを作る時なのかもしれない。

作り手と買い手をつなぐ立役者

農業は構造的にとっても資金効率が悪い商売だ。種や資材をそろえ、何か月もかけて栽培し収穫しても、その時期の作物の値段によって収入が左右される。そこで参考になったのは、日本の古き良き農協の機能だ。

JC Agricultural Cooperatives Co., Ltd (JCAC) は、農協の「農業技術や設備を農家に提供する」機能を展開している。カンボジア農家に対して農業機械をメンテナンス・販売し、農業ドローンなどの先端農業技術で農業レベルを向上させる取り組みを行っている。

一方、農協の「農家を資金面で支える」機能を、日本の事業家・投資家とカンボジアで共同創業した JC Finance Plc. という金融機関で行っている。

将来的には、「農家から農作物を安定した価格で買い取る」機能を実現したい。



加工業のきっかけと現在

2012年、青果の生産・流通・輸出入事業をメインにカンボジアで農業事業をスタートした Japan Farm Products (Cambodia) Co., Ltd. 「安全・安心・良品質」を追求し、たどり着いたのは加工事業だ。そのままの美味しさをより遠くの人へ届けたい。その思いがドライフルーツ事業開始に繋がり、商品化するまで1年以上の時間がかかった。カンボジア・日本の様々な企業協力のおかげで2020年4月末から、ナチュラルローソン日本国内全店舗で販売されることとなった。

マンゴーは、果肉感のあるケオロミート種を使用。パイナップルはバットアンバン産の品種を使い、完熟期に合わせ無糖で最大限甘くなるよう管理している。柿は、日本で栽培したものをカンボジアへ輸入し加工し商品化した。次なる目標は「無添加ドライフルーツ＝カンボジア」のイメージを確立させること。消費者のイメージはまだまだ弱いため、販路拡大とともにイメージチェンジが必要だ。



フ ル ー ツ



仙台あれこれ・・・

伊達藩から続く仙台箆筒 ～時代を超えて愛され続ける伝統工芸～

国の伝統的工芸品にもなっている仙台箆筒。仙台藩の産業として、江戸時代末期に誕生しました。もともとは刀や着物などを収める箆筒として、武家の間で広まりました。実用性が重視されていた仙台箆筒ですが、明治以降一般にも普及していくにつれ、美しい漆塗りや、華やかな飾り金具などの美術的要素が加わり発展していきました。



門型車箆筒（彫金手打金具）



猫足チェスト（左：茜色 右：藍色）

仙台箆筒は時代の流れとともに、使用目的が変わってきています。衣類の収納だけでなく、食器収納としてやインテリアとしてお使いいただくなど用途は様々です。中でも小ぶりでありながらデザイン性の高い箆筒が人気。漆に顔料を混ぜた“日本の伝統色”の箆筒も存在感と重厚感ばっちりです。リビングや寝室はもちろん、玄関などにも置いていただいています。

使い込めば使い込むほど味わいが増していく仙台箆筒は、しっかりと手入れをすれば、100年以上もお使いいただけます。次の世代へ受け継がれていく家具、それが仙台箆筒です。



四尺階段箆筒



片開小箆筒



ニッ抽小箆筒



北仙台ショールーム

☎0120-725-231 ☎022-271-5231

〒981-0912 宮城県仙台市青葉区堤町 1-20-70

シティウイング 北仙台 1F

URL. sendaitansu.jp

